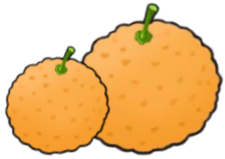


北木島 DAIDAIGO!GO!



「きたり」



きっかけ



北木島では、牡蠣を食べるときに使われている。この橙を使って、何か島おこしはできないかと考え、橙の生産方法について調査した。島で調査すると橙は「**ほってーでも勝手になる**」と興味深い話を聞き「私たち学生が担い手として継承できるのでは」と考えた。



オープンビジネスモデル「きたり」

「**学校に着目!**」、学校という仕組みで自動的に後継者をつなげることを考えた。私たちが、ノウハウを共有経験するので、社会人になったと時もアドバイスが可能! 秘伝の書は、学校・地域に保存するという仕組みを考えた。このことは橙だけでなく他の業種にも応用が可能!!

そして、プロジェクト名を橙をつかった島おこしを進めていくことから、『**北木島 DAIDAIGO!GO!**』とした。このプロジェクトは、地域で育む代々続ける産学共同の事業継承モデルであり、「きたり」は、過疎化が進んでいる北木島に「人が来てほしい」という思いと、私たち高校生が「**いったり・きたり**」して、後継者につなげる「**未来への橋渡し**」を意味している。



多くの学校で実施していただき、日本の未来へ繋ごう!

クラフトコーラ



橙は、他の柑橘類に比べ、認知度が低く、あまり商品化されていないため、「**ビジネスチャンス**」だと考え、調べてみる中で、私たちの目にクラフトコーラが留まった。クラフトコーラは、レモンなどの柑橘類が多く使われている。そこで「北木島の橙」のみを使用すれば、独自性のあるクラフトコーラが作れると考え、レシピ案・クラフトコーラを試作。実際にお店の方に飲んでいただくと、「これは売れるよ」とお墨付きをいただいた。商品名はプロジェクト名と同じ『**北木島 DAIDAIGO!GO!**』にした。クラフトコーラが売れば橙が多く必要になる。私たちは将来のために北木島に橙の苗木を植え、需要拡大に応じて橙の木を増やしたいと考えている。そして、将来は「**馬路村のゆず**」のように「**岡山県北木島の橙**」として親しまれるようにしたい!

